急性心筋梗塞患者における退院時抗血小板薬投与割合

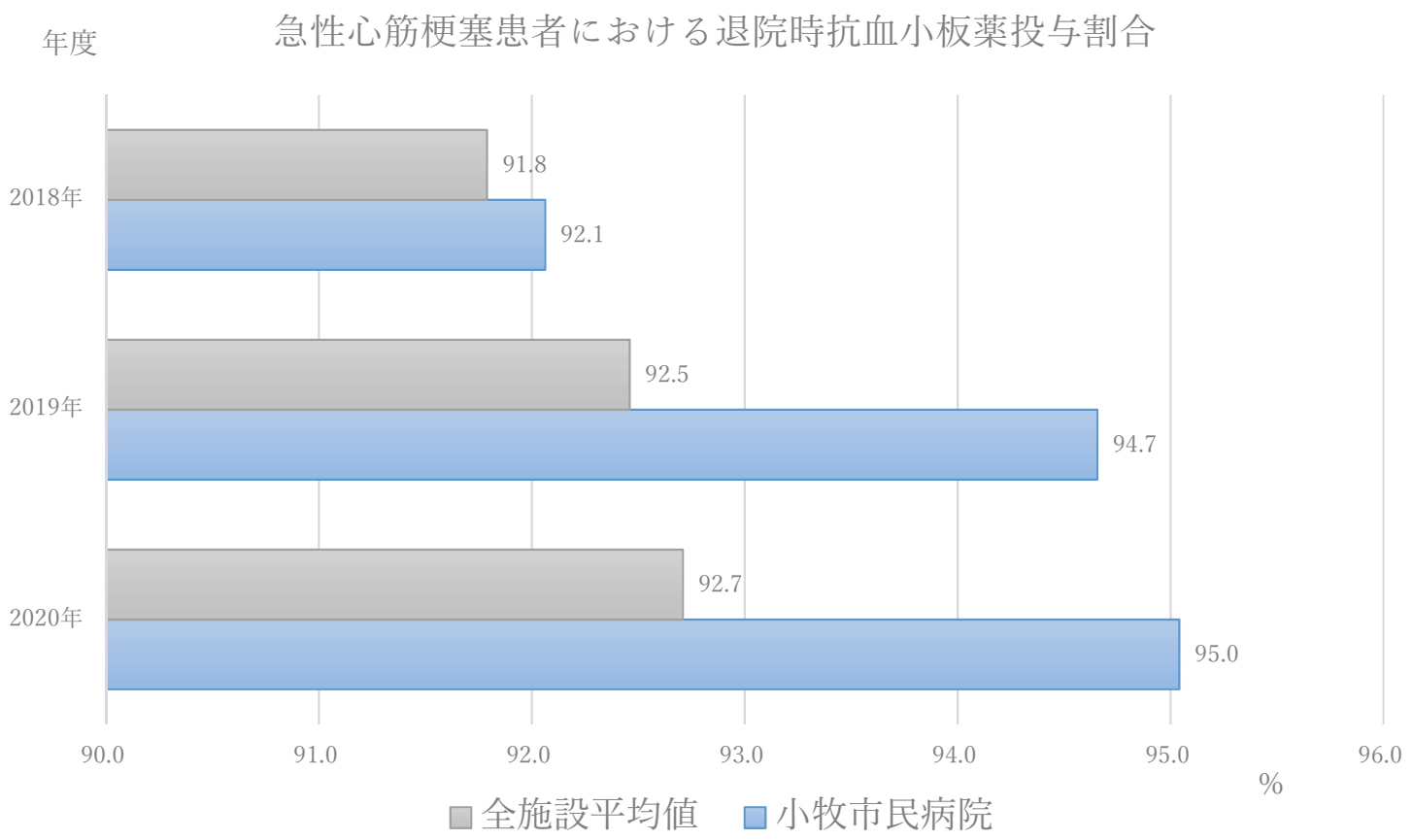
QI 項目の解説

急性心筋梗塞は通常発症後 2～3 ヶ月以内に安定化し、大多数の患者さんは安定狭心症または安定した無症候性冠動脈疾患の経過を辿ります。心筋梗塞発症後の長期予後を改善する目的で抗血小板薬、β-遮断薬、ACE 阻害薬あるいはアンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬（ARB）、スタチンなどの投与が推奨されています。

急性心筋梗塞患者における退院時抗血小板薬投与割合

QI 指標の定義・計測方法

$$\frac{\text{分子：退院時に抗血小板薬が投与された患者数}}{\text{分母：急性心筋梗塞で入院した患者数}} \times 100\text{【\%】}$$



2020 当院データと全施設平均値との比較・原因分析

当院 95.0%であり全国平均の 93.7%を上回っています。問題ないと判断します。

2020 当院データと 2019 当院データとの比較・原因分析

当院 95.0%であり昨年の 94.7%を上回っています。問題ないと判断します。

数値改善に向けた今後の取り組み

このまま抗血小板薬投与の重要性を若手循環器医師に教育を行います。

2019 当院データ評価時の改善策の実施状況と評価

2020 年度の若手医師への教育が効を奏したと判断します。